**平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果について**

平成２８年４月１９日に「全国学力・学習状況調査」が小学校６年生、中学校３年生で実施されました。多治見市の傾向は以下の通りです。

【小学校】＜実施教科＞国語Ａ、国語Ｂ、算数Ａ、算数Ｂ

○平均正答率について

多治見市の結果は、国語Ａ以外は、全国や県の平均正答率を上回っている。国語Ａについては、全国平均を下回っているが、昨年度に比べ全国平均に近づいている。

○各教科の傾向について

　国語

　・書き手や話し手の意図について、適切に説明されたものを選択する設問や、描かれた人物像を説明するための根拠となる表現を選択する設問など、選択する問題の正答率が高い。

　・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする問題の定着に課題がみられる。

　算数

 　・計算の技能は概ね身に付いている。

　　・問題文から根拠をみつけたり、理由をはっきりさせたりして解答する力に弱さが見

　　　られる。

 　・条件を用いて説明したり、解答の理由を説明したりするなど、論理的に説明して解

　　　答する力に弱さがみられる。（筋道立て手説明する力の弱さ）

 　○質問紙の結果から

　　・「自分には，よいところがあると思う。」

　　・「家で，学校の宿題をしている。」

　・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがある。」

　・「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思う。」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　と答えている生徒の割合が全国平均より高い。

【中学校】＜実施教科＞国語Ａ、国語Ｂ、数学Ａ、数学Ｂ

○平均正答率について

　すべての教科において全国平均を上回っている。数学においては、県平均も上回っている。

○各教科の傾向について

国語

・話し手の意図を選択する設問、伝えたいことが効果的に伝わるように見出しを考えて書く設問、文章の構成について正しく説明されたものを選択する設問などの正答率が高い。

・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする力や、文字や歴史的仮名遣いの知識に課題がみられる。

数学

　・数学の基礎的な技能が身に付いている生徒の割合が高い。

　・具体的な事象における数量の関係を、式に表現する力に弱さがみられる。

　・問題解決の方法を数学的に説明したり、数学的な処理の手順を目的に応じて変えたりする力に弱さがみられる。

　○質問紙の結果から

・「毎日，同じくらいの時刻に寝ている。」

　・「学校の授業時間以外に，１日当たり３時間以上勉強をする。」

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

　・「家で，自分で計画を立てて勉強をしている。」

　・「家で，学校の予習・復習・宿題をしている。」

　・「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。」

　・「人の役に立つ人間になりたい。」

　　　　　　　　　　　　　　　　と答えている生徒の割合が全国平均より高い。

**家庭での学習習慣、生活習慣や学校で学習に向かう姿勢がよいと学力調査の正答率も高い傾向が見られます。家庭においても学習習慣や生活習慣等の向上にご協力頂きますようお願いします。**